
タイムマシン

えりまき ねっ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

タイムマシン

【Nコード】

N27360

【作者名】

えりまき ねう

【あらすじ】

幼い少年は、ある日「タイムマシン」を売るおじさんに出会った。

(前書き)

大分前ですがBlogに書いたものです。
記事を整理していたら見つけました。

ある夏の日の学校からの帰り道、歩道橋の下でおじさんがタイムマシンを売っていた。

2850円だった。

やっぱり結構するんだな、タイムマシンだからな。

お年玉と、貯金箱のお金と、今月のお小遣いを足して何とか足りそうだ。

ボクはおじさんの居る、歩道橋の下へと走った。

売れてないといいな。

あれ？

タイムマシンを買ったらどうしよう。

何故か足取りが急に重くなり、やがてボクは立ち止まった。

結局ボクはおじさんの居た歩道橋には行かず帰ってしまった。

ちよっともったいなかったかな。

それから20年後、ボクはタイムマシンを作り上げた。

とても巨大で、原子力発電所がいくつも必要な3秒後の世界に行けるタイムマシンだった。

あのおじさんのタイムマシン、やっぱり買っておけばよかったな。

いつか絶対に買いに行こうとボクは思った。

その50年後、ボクはやっと過去の世界に行けるタイムマシンを作り上げた。

サイズもかなり小さくなった。

ボクはあの日、歩道橋へ行く。

歩道橋の下には懐かしいあのおじさんが椅子に座ってタイムマシンを売っていた。

ダンボールに手書きで書かれた値札は2850円だ。

そのタイムマシンはブリキ缶にペンキで丁寧に塗装された、このおじさんのお手製のものだった。

ボクは2850円でおじさんからタイムマシンを買った。

おじさんが「おみやげですか?」と聞いたので、ボクは「はい」と答えた。

(後書き)

幼い日の思い出は、
思わぬ原動力になったりする事があるかもしれ
ません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2736o/>

タイムマシン

2010年10月12日04時55分発行